

第2回新嵐山スカイパーク経営改革

調査特別委員会会議記録

開 閉 会 日 時	令和 7 年 6 月 18 日（水曜）			午後 1 時 30 分 開会		
	休 憩 13:59-14:00 14:34-35 14:36-37					
				午後 2 時 38 分 閉会		
	休憩時間：0 時間 3 分			会議時間：1 時間 35 分		
会 議 場 所	委員会室					
出 席 委 員 氏 名	委員長 鈴木 健充	委 員 立川 美穂	委 員 木村 淳彦			
	副委員長 正村紀美子	委 員 渡辺洋一郎	委 員 伊藤 稔			
	委 員 西尾 一則	委 員 堀切 忠	委 員 菊池 秀明			
	委 員 常通 直人	委 員 橋本 和仁				
	委 員 中村 和宏	委 員 中田智恵子				
	委 員 早苗 豊	委 員 小笠原 等	議 長 梶澤 幸治			
欠 席 委 員 氏 名						
説 明 等 に 出 席 し た 者 の 氏 名	副町長 佐野 寿行	生涯学習課長 江崎健一				
	魅力創造課参事 中村宗紀	スポーツ振興係長 梅森祐之				
	魅力発信係主査 藤村勇貴					
事務局職員	事務局長 安田 敦史	総務係長 竹川 恭史	総務係主査 大石真澄			

『会議に付した事件と会議結果など』

1 開 会

- ・委員長が開会を告げ、事務局から本日の委員会の日程を説明する。

2 議 件

（1）調査事項

ア 令和7年度新嵐山スカイパーク再生に向けた取組について

資料1

- ・委員長：最初に本日の調査の趣旨と進め方について、共通認識を図りたい。まず最初に、本日の調査の位置付けについて説明する。本日は去る5月9日に開催した「第1回特別委員会」の継続調査として、前回と同じ資料について調査をするものである。再調査するに至った主な経過としては、前回特別委員会で調査した「今年度のスキー場の運営」に係る個別事業の実施にあたり、特別委員会として「① 財政面からのチェック」と「② 事業の是非を判断するための共通した論点整理」が必要と判断したことから、5月23日は専門知識の会得として「人口減少時代における地方財政のチェックポイント」と題した議員研修を受講し、5月30日には全委員によるミーティングを行い、今回の調査事項について論点を明確にしたものである。本日はこのことを踏まえて、再調査することを最初に共有する。なお、町から追加資料の提出があったことから、最初にその内容を調査し、その後、「スキー場への自動改札機導入について」の是非を判断する上で、

あらかじめ議会内で共有した「3つの論点（①新嵐山スカイパーク再生基本構想との整合性）（②メムロスキー場運営の全体構想との整合性）（③緊急性の定義・根拠）」ごとに一括質疑で調査を進めたい。異議ないか？

- ・（異議なし）
- ・委員長：それでは、資料の説明を求める。
- ・魅力創造課参事：資料説明＜「メムロスキー場の利活用に関する要望について」＞
- ・委員長：一括して、意見・質疑はないか？
- ・立川委員：単独自治体としてのスキー場運営も財政的に厳しい中、他自治体からの要請や広域的な運営が期待された場合、当事者からの財政支援も視野に入れて検討していく考えか？
- ・参事：現時点では他自治体からの財政支援は念頭に置いていないが、事業・行事等への人的支援等は想定しているものである。
- ・常通委員：今回の要望は「Bコース」となっているが、町がスキー場を整備する上での優先順位と一致せず、先方のニーズを満たすことになるのか？
- ・参事：Bコースは人口降雪機は頂上付近にのみ設置しており、それを前提として自然降雪の状況でコース開放の可否が決まるので、必ずしも先方の要望を満足させることにならないことはあらかじめ承知されている。また、そのことによって整備順位を変えることもなく、本町としてはA・Cコースが優先となることは変わらない。
- ・常通委員：先方には困難性も伝えてあるのか？
- ・参事：先方に対しては、気象条件によっては要望を満たすことができないことも想定できることを前提に、施設利用の同意を問われているもので、この旨を合意したものである。
- ・菊池委員：検定会場は芽室以外にはないのか？
- ・参事：先方からそういった情報は得ていない
- ・橋本委員：気象条件によっては、コース開設不可も先方は了解していると言うが、今回の要望を受けて、新たに町として整備を行う考えはないという解釈で良いか？
- ・参事：頂上付近の自動降雪機は稼働させるが、それ以外は自然降雪に委ねるしかないため、A・Cコースの造成と併せて、通常のスキー場運営の範囲で整備しようとするものである。
- ・渡辺委員：「一部の検定が受けられなくなる」と要望にあるが、この検定対象となる影響人数は？
- ・参事：検定対象の概数で、子どもが30～40名。大人が20～50名と聞いている。
- ・委員長：他にないか？
- ・（意見・質疑なし）
- ・委員長：以上で「メムロスキー場の利活用に関する要望について」の質疑を終了する。

- ・委員長：次に、前回委員会の調査資料について、冒頭で共有したとおり、論点ごとに一括質疑を行う。最初に「新嵐山スカイパーク再生基本構想との整合性」について、意見・質疑はないか？
- ・正村委員：基本構想における「スキー場」の整備について、「財源確保を条件に実施する。」と記載している町の意図は？
- ・参事：スキー場に関しては、新嵐山スカイパーク全体の他の機能とは別に「存続する意思」を内外共に明確にしたところである。この意思に基づき、計画的に機能運営を目指すことを記載した趣旨である。
- ・正村委員：その意思是理解する。「財源確保」の定義として、金額の上限はあるのか？
- ・参事：財源としては一般財源と補助金との関係、または、事業実施による初期投資とランニングコストとの関係などを総合的に加味して整理したい趣旨である。
- ・立川委員：（自動改札機導入に係る）設備投資の減価償却費と削減効果の関係は？
- ・参事：減価償却費については、今回の事業のみに試算の要素となっていない。人件費の減を積み上げると、投資額を回収できると分析したものである。
- ・委員長：他にないか？
- ・（意見・質疑なし）
- ・委員長：次に「メムロスキー場運営の全体構想との整合性」について、意見・質疑はないか？
- ・正村委員：自動改札機の導入は、人手不足の解消と効率的な利用と解釈する。目標とする30万人の利用客と設備導入効果との関係をどう捉えているか？
- ・参事：設備導入が利用者増につながるというのではなく、利用者にとって利便性が図られ、関わる人員の減等につながるという整理である。
- ・正村委員：設備導入により、1線あたり1名減。2線で2名減。1線には5人必要であるなら、10人を要するところ2人が削減されるという理解で良いか？
- ・参事：今シーズンについては、初めての試みであることから1名の減。Web決裁の場所も最初から円滑な運用にならないことも予想され、年次計画的に人員減を図っていきたい。
- ・委員長：他にないか？
- ・（意見・質疑なし）
- ・委員長：最後に「緊急性の定義・根拠」について、意見・質疑はないか？
- ・伊藤委員：人員確保の面から考えると、「自動改札機」の導入は緊急要素があると思う。令和6年シーズン人員確保で苦慮した点はあるのか？
- ・参事：スキー場に限らず人員不足は共通した重要な課題であり、苦慮する事項である。
- ・立川委員：人材確保として、人件費を高く設定することはあるのか？
- ・参事：町は一定積算の中で委託料を執行することから、委託先が人材確保策として賃金を上げることは可能であるが、そういったことは把握していない。
- ・渡辺委員：緊急性として、当初予算に計上されていないことを視点とすると、こ

の事業採択のスケジュールを確認したい。

- ・参事：町から 1 月末の申請。4 月 1 日付で採択。
- ・渡辺委員：この流れでは当初予算に計上できないと解して良いか？
- ・参事：お見込みのとおり。
- ・委員長：他にないか？
- ・（意見・質疑なし）
- ・委員長：最後に全体を通し、意見・質疑はないか？
- ・橋本委員：異常気象（降雪量の減少）をどう捉え、今後のスキー場運営をしようとしているのか？
- ・参事：記録的な大雪があったり、年末に雪が少なく当初オープンができないなど見通せない状況であるが、基本構想に基づいて運営に努めていきたい。
- ・木村委員：人員減を重視することはやむを得ない事情と受け止めるが、安全対策も軽視できない経営責任と考える。このバランスをどう考えるのか？今回の設備導入は利用者の利便性向上が最たる目的ではないのか。
- ・参事：スキー関係者と密に打ち合わせをしながら、適切な人員配置により、助走期間を含めて新たな運営方法に移行していきたい。
- ・委員長：他にないか？
- ・（意見・質疑なし）
- ・委員長：全体を通した意見・質疑はないものと認め、以上で調査事項「ア」を終了する。

- ・委員長：これから自由討議を行う。意見はないか？
（なし）
- ・委員長：以上で、自由討議を終了する。

3 その他

（1）次回委員会の開催日程について

- ・委員長：正副一任
- ・（異議なし）
- ・委員長：決定する。

（2）その他

- ・委員長：その他で各委員からないか？
- ・（なし）
- ・委員長：議長からないか？
- ・（なし）
- ・委員長：事務局からないか？
- ・（なし）

以上をもって委員会を閉会する。

傍聴者数	一般者	0名	報道関係者	1名	議 員	0名	合計	1名
------	-----	----	-------	----	-----	----	----	----

令和7年6月18日

新嵐山スカイパーク経営改革調査特別委員会
委員長 鈴木 健 充